

新・鴨川市立国保病院の概要

【 新病院のコンセプト 】

1 災害時に市民を支える

本市の主要な市街地、医療機関は天津小湊・鴨川・江見地区沿岸部に立地しています。東日本大震災での教訓を踏まえ、災害発生時に全市民の医療や長期避難を支える拠点として、内陸部・長狭地区にある本院を整備します。

2 これからの公的医療を推進する

医療・介護・福祉サービスを一体的に提供する「地域包括ケアシステム」の構築や、データヘルス改革を通じた住民の健康レベルの維持向上の実践など、これからの公的医療の拠点として整備し、医療費を含む社会保障の適正化に取り組みます。

3 まちの活性化を支える

24時間灯りがともる病院は、安心な暮らしを守る「地域の拠点」となります。地方への人の流れを支え、しごとをつくり、安心して住むことができる地方創生推進の拠点として、本院エリアを整備します。

【 新病院の概要 】

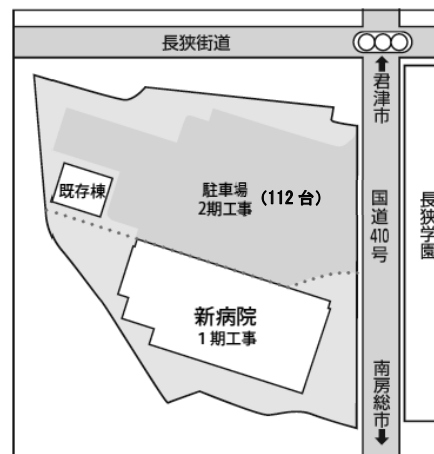
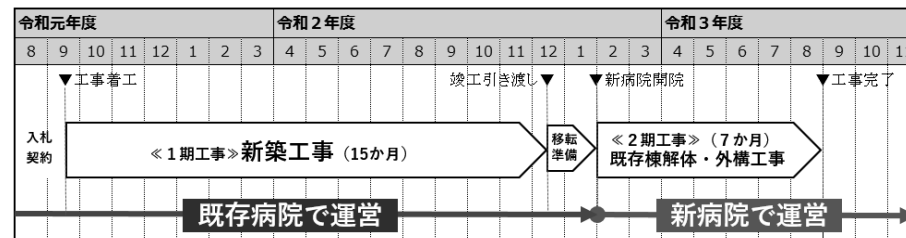
- ▽ 病床数 70床
(急性期病床20、回復期病床32、慢性期病床18)
※慢性期病床は令和5年度末までに介護医療院へ転換予定
- ▽ 構造種別 鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造、地上3階建
- ▽ 建物の高さ 16.1m
- ▽ 敷地面積 11,778.08㎡
- ▽ 延床面積 5,103.70㎡
- ▽ 事業費 約27億2,200万円

■各フロアの概要

- ▽ 1階 外来診察室(5室)、歯科診療室、検査室、手術室・処置室、リハビリ訓練室、地域包括ケアセンター(訪問診療、訪問歯科診療、訪問看護ステーション、訪問リハビリ、居宅介護支援事業所、訪問介護事業所、医療・介護連携支援室、福祉総合相談センター・長狭)ほか
- ▽ 2階 入院病棟35床
- ▽ 3階 入院病棟35床
※2・3階の入院病棟は、プライバシーや感染症に配慮し、個室を基本とします。



【 新病院の建設スケジュール 】



新病院建設工事は2期に分けて行います。

まず、1期工事(令和元年9月～)では、現病院の南側に新病院を建設します。その後、移転準備を経て、令和3年2月には新病院での運営を開始(予定)。

新病院開院後の2期工事では、現在の病院の解体・外構工事を行い、112台分の駐車場(現在は50台)を整備します。最終的に、全ての工事が完了するのは、令和3年8月末となる見込みです。

【 鴨川市立国保病院の担う役割と取り組み 】

鴨川市立国保病院は、2025年を見据え、安房保健医療圏における病床機能の分化と連携促進を図るため、以下の役割を担い取り組んでいきます。

鴨川市立国保病院を起点として、安房・君津地域に及び半径約9kmの圏域内唯一の医療機関として、病院をベースとしながらも在宅医療や介護サービスの提供を行い、在宅生活を支援する地域包括ケアの拠点として地域医療の充実を図ります。

- 具体的には、以下のとおり地域医療構想の実現に向けた病床機能の転換を図ります。
 - (1) 安房保健医療圏で過剰な急性期病床の回復期病床への転換
※急性期病床52床のうち、32床を地域包括ケア病床へ転換(令和2年2月以降)
 - (2) 慢性期病床の介護医療院への転換(令和5年度末までに18床転換を検討)